

南の風 For Junior 126

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

5アウトモーションオフENSEのカットプレーについて書きます。

カットプレーとは一言でいうと、走り込むことを言います。オフボールマンの動きはいろいろありますが、スクリーンなどより1人でやるのでやりやすいという利点があります。カッティングは、個人の動きや判断のできるので、どんどん動きを増やして攻めるには効果的な戦術と言えます。

カットプレーの具体的な攻め方を紹介します。

①クローズアウトゲームに持ち込む

②リプレイス

この2つです。①のクローズアウトゲームとは、相手ディフェンスを『後追いにさせよう』と言うことです。例えば、右ウイングからペイントヘドライブで侵入したとします。この時、左コーナーのオフENSEに付いていたディフェンスが、ヘルプに来ればここで一回目のクローズアウトが発生し、コーナーのオフENSEにアドバンテージが生まれます。このコーナーのオフENSEに、左ウイングに付いていたディフェンスがヘルプに来れば、ここで2回目のクローズアウトが発生し、左ウイングのオフENSEはほぼ完全ノーマークになるのです。

このようにすべてのオフENSE戦術の目的は、クローズアウトを発生させることです。一度ペイントアタックして、カバーが来たらキックアウトパスを飛ばす、ローテが来ればさらにエキストラパスを飛ばしてノーマークを発生させアドバンテージを作るということです。

アライメントは125号と同じです。確認して読み進めてください。

トップの1は右ウイングの2にパスします。1がいきなりドライブを仕掛けてもギャップが狭いので早いカバーが来るからです。ここはパスエントリーとします。

1はパスした後、ボールサイドカットします。2からのリターンパスが入ればシュートです。シュートできなくてもヘルプが来れば、クローズアウトゲームに持ち込みます。5のディフェンスがヘルプに来れば、5にキックアウトパスして攻めます。さらにカバーが来れば、エキストラパスを3に出して完全ノーマークを作ります。

さらに3が右にドライブしたとすると、最初にカッティングしてエンドラインぎりぎりの、制限区域の端っこ(ダンカースポットと呼ばれる)にいた1が、エンドライン側をカットして(サークルムーブ)、逆サイドで合わせることもできます。このように5アウトのカッティングからクローズアウトに持っていき、サークルムーブで合わせるといいオフENSEになります。

次に②のリプレイスです。これはカッティングしたときにパスが入らないときの攻め方です。

1が2にパスしてボールサイドカットします。試合では、いつもカッターにパスが入ることはありません。1はボールが来なかったときに、逆サイドのコーナーに切れます。このとき、左コーナーにいた5は左ウイングに上がり、左ウイングにいた3は、トップの位置に移動します。このようにローテーションすることをリプレイスと呼びます。次号にします。